

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年7月23日(土)

### 《麦と毒麦 ～悪いものに負けないように、よいものを強める～》

今日の福音(マタイ 13:24 - 30)は、1週間前の主日の福音と全く同じ内容です。その時は簡単に説明をしましたが、今日はもう一度話し合ってみたいと思います。

『毒麦』をご覧になったことがありますか。雑草ですが、見た目はほとんど麦と同じです。しかし、何の役にも立ちません。強い根で麦の根にからんでしまい、本物の麦より強い植物です。だから『毒麦』と呼ばれるようになったのです。

今日イエス様は、天国のたとえとして、麦と毒麦の話をされました。

麦の中に毒麦を見つけた僕たちが、「芽が出た毒麦を全部抜いてしましましょう。」と言います。しかし主人は、「それはいけない。麦も一緒に抜いてしまうかもしれない。刈り入れの時までそのままにしておきなさい。そして刈り入れる時、麦と毒麦を分けて、麦は倉に入れなさい。」と言いました。“麦の入れられる倉が天国である”というたとえ話です。

イエス様がいらっしゃったパレスチナ地方は、麦の栽培が盛んなところです。水が少なかったため、麦を作っていたのです。人々は、麦のパンで生活をしていました。だから、毒麦にはものすごく敏感でした。そのような環境で生きていたため、イエス様はよく麦と毒麦をたとえ話として使われたのだと思います。

では、なぜイエス様はこのようなたとえ話をなさったのでしょうか。1週間前にも申し上げましたが、私たちが生きている限り、毒麦は存在します。毒麦を除いて、私たちが望むものだけを残すことはできません。花を栽培すれば、その横には必ず邪魔になる雑草も出てきます。「雑草を抜くために力を入れるのではなく、花自体の力をもっと強めて雑草に負けないようにすること」それが天国に近づく唯一の方法である、とイエス様はおっしゃりたかったのです。

人類の歴史はいつも、悪を取り除こうとしながら、悪と同じ方法を使いました。“正義”と叫びながら、悪魔が使う方法で人を殺してきたのです。私たちが忘れてはいけないことは、“雑草は必ず出る”ということです。どこから飛んでくるのか分かりませんが、いくら頑張っても雑草は生じるのです。だから『世の中』と言うのです。そうでなければ『天国』と言えるでしょう。

では、私たちはどうすればよいのでしょうか。それはただ一つです。本当に欲しいものを強める事です。「悪が嫌いならば、善を行いなさい」ということです。しかし私たちは、そういう意味では愚かな選択をしてしまう場合が多いでしょう。口ではよいことを言いながら、実際には悪いことばかりしてしまいます。そういうことから解放されなければ、絶対に幸せを感じられないと思います。

そしてもう一つ、私たちがこの福音を通して考えなければいけないことは、『神様の配慮』です。『神様の愛』です。神様の目には、毒麦は醜かったのでしょうか。しかし、それを取り除けなかったのです。

理由は、本当の麦が怪我をする可能性があったからです。

イエス様は亡くなる前に「私が約束した世界はこの世ではない。私の王国はこの世ではない。」とおっしゃいましたね。それと全く同じことです。「今あなた方は、いろいろなことで苦勞をしているが、私が教えた正しさを守ろうと頑張れば、最後は私が受け取る。私の倉に入れる。」というのが基本的なキリスト教の教えです。

皆様も納得出来ない悔しさを体験することがあるでしょう。なぜこんなことに辛くさせられるのか、と思うこともあるでしょう。しかし、それに転んでしまうことも大きな罪になってしまいます。私たちは希望的にならなければいけません。私たちは、どんなことがあっても積極的に希望を持つ存在です。「私たちは麦として守られている。今は辛いかもしれないけれど、きっと神様が見守ってくださいている。」という強い意識が必要ではないかと思います。

ありがとうございました。